

Mizunoki Collection 2025

Flowers

2025.5.23 金
-9.28 日



みずのき美術館コレクション展 2025「Flowers」

開館：金土日祝 10:00-18:00

入館料：一般 400 円、高大生 200 円、中学生以下無料、障害のある方と介助者（1名）無料

会場：みずのき美術館

展示作家：浅木久輝、岩本勇、小笹逸男、岸ノ上卓二、中原安見子、福村惣太夫、二井貞信、森川大輔、山崎孝、山本一男、山本悟、ほか

主催：みずのき美術館（社会福祉法人松花苑）

み
ず
の
き
美
術
館

みずのき美術館では、20,000点を越える絵画作品を収蔵しています。作品はどれも、美術館の名前の由来にもなった障害者支援施設みずのきの絵画教室で制作されたもので、作り手はみずのきで暮らしてきた人たちです。当館では2012年の開館以降、この膨大な作品群のアーカイブを行い、コレクション展等を通じてご紹介しています。

2025年のテーマはFlowers（花）。

生活の中で、贈り贈られ、育てるなどする身近な存在であり、また自然の美しさに象徴的な意味を見出し非日常性をも与える花。古来より多くの画家がその姿を捉えようと試み名作が誕生していますが、みずのきの作家たちは、果たしてどのように花を描いてきたのでしょうか。

気の向くままに色彩躍るドローイング、正確に捉えようとモチーフと向き合ったデッサン、秀逸な構図と集中力で結実した大作が咲き誇る、みずのき美術館の花畑へみなさまを誘います。

同時開催

山本一男 追悼展

2025年1月に旅立った山本一男を偲び、特別展示を行います。



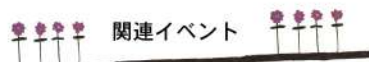
《顔》1983年制作
90.3×90.8cm
アクリル、スプレー、木炭、パネル



プロフィール：

1976年から絵画教室に参加もとは円を描くことが苦手だったことから始まった、皿やコップの裏、あるいは自分の手を象った型紙を用いて図を描き、アクリル絵の具とスプレーで仕上げていく手法を学んだことによって、透明感のある表現力豊かな作品を生み出した。一つの作品にゆっくりと時間をかけ、時折うたた寝も挟みながら、丹念に描き進めるのが特徴。

2025年1月逝去、享年69歳。



関連イベント

ギャラリーツアー

展覧会をより楽しんでいただけるよう、作品の特徴や見どころについて話しながら展示室を巡ります。

第一回 2025年6月15日（日）15:00-16:00

第二回 2025年9月14日（日）15:00-16:00

進行役：

森太三（美術家、みずのき美術館インストラー、みずのきアトリエ講師）
奥山理子（みずのき美術館キュレーター）



小笹逸男《花》1985-89年制作 | 90.8×90.5cm | 油彩、オイルパステル、パネル



森川大輔《えのさくひん》2015年制作
38.0×27.0cm
アクリルガッシュ、オイルパステル、画用紙



岸ノ上卓二《タイトル不明》1999年制作
53.8×37.9cm
オイルパステル、画用紙

絵画教室について

障害者支援施設みずのきで、入所者を対象に1964年に誕生。講師の画家・西垣壽一（1912-2000年）は当初、余暇利用、情操教育等を主とするクラブ活動として考えていたが、入所者の多様な反応や変化の兆しを感じ、その後本格的な美術教育へと転換する。作品は国内の美術公募展で入選を果たした後、1990年代に日本のアール・ブリュットとして紹介され、国内外から注目を集めた。西垣の逝去後は、名称を「みずのきアトリエ」と変え、新たな絵画プログラムとして取り組まれている。みずのき美術館では、絵画教室で制作された作品約20,000点を収蔵、管理している。



【お問い合わせ】

〒621-0861 京都府亀岡市北町18

TEL 0771-20-1888 FAX 0771-20-1889

www.mizunoki-museum.org

JR嵯峨野線「亀岡駅」下車、南口より徒歩約8分

※美術館に駐車場はございませんのでご注意ください